宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者川崎大会

祈りを通して世界平和実現の道筋を

川崎大師

11月17日、神奈川県川崎市の真言宗智山派大本山川崎大師平間寺で、第42回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者川崎大会が「世界平和実現のための道筋とは」をテーマに開催された。主催は世界連邦日本宗教委員会。

藤田隆乗川崎大師貫首を大導師に特別大護摩祈願＝11月17日、神奈川県の川崎大師

最初に、世界平和の祈りとして特別大護摩祈願が、藤田隆乗・川崎大師貫首を大導師に大本堂で執り行われた。大導師が表白を読み上げ、式衆が経を唱える中、世界平和と所願成就を祈願する護摩が焚き上げられ、参列者が真摯な祈りを捧げた。

次いで、開会式が信徒会館で行われ、導師の一宮良範・念法眞教教務総長の言葉「川崎大会に参加した私たちは、今心を一つにして祈ります」に応え、全員で「世界がほんとうに平和になり、すべての人々が幸せでありますように…」と唱和し、黙祷を捧げた。

開会の言葉は、前回大会大会長の利根康教・寒川神社宮司が、「前回の神奈川・寒川大会では、日本人が培ってきた和の精神で世界に希望を与え、平和を築いていくことを誓い合った。しかし世界各地で紛争によって多くの命が犠牲になり、地球環境の変動や食糧危機などの問題が山積みである。今日は登宗教・宗派の英知を結集し、平和への道筋を考えたい」と述べた。

次に今回大会の大会長である藤田隆乗貫首が「この4年間、世界は未曾有の災禍に見舞われ、数多の命が失われた。加えて各地で戦禍が広がり、世相は混迷を極めている。川崎大師の本尊である弘法大師は『鎮護国家』と『済世利人』を誓願された。平和への祈りは変わることなく続いている」と挨拶した。

大会副実行委員長の黒住宗道・黒住教教主は実行委員長の田中恆清・世界連邦日本宗教委員会会長（石清水八幡宮宮司）の挨拶を代読。「諸宗教間対話と平和への祈りを積み重ねてこられた宗教者・信仰者の皆様が再び川崎大師・平間寺に集い、神道、仏教、キリスト教、新宗教、イスラム教それぞれの知恵を結集され、真の『世界平和』実現への道筋を見出されますよう祈念する」そして、「川崎大師での大会は3度目で、心から感謝する」と述べた。

来賓の紹介の後、世界連邦運動協会会長の大橋光夫氏が、「人類が殺し合うのは愚かなことだ。地球上のどこに住んでいても同じ血で繋がっている人類は仲良くできるはずだ。地球のため、全人類のために役立つことをするのが私たちの役目である。平和で仲良く生きていけるよう運動を続けていく」と祝辞を述べた。

続いて、岡部芳彦・神戸学院大学経済学部教授・同大国際交流センター所長が「知られざる日本ウクライナ交流史」と題し講演した。（2面に講演要旨）

開会の言葉を述べる利根康教・寒川神社宮司

祝辞を述べる大橋光夫・世界連邦運動協会会長

閉会式では、同実行委員会の横山照泰監事（元天台宗務庁一遍を照らす運動総本部長）が大会宣言文「これ以上生きとし生ける貴い命が無益に失われることがないよう、全世界の人々に向け平和の大切さを、祈りをもって呼びかけることが必要不可欠であると確信している。今こそ英知を結集し世界平和の道筋をつくろう」（要旨）を読み上げ、満場の拍手で採択された。最後に宗野史生副実行委員長（扶桑教管長）が「平和への強い気持ちを絶やすことなく、持ち続けることが大切だ。明日から祈りを通してこの平和への道筋を歩んでいきたい」と閉会の辞を述べた。

直会に移り、常任顧問の阿部昌宏天台宗宗務庁宗務総長と監事の鎌田紀彦大宮八幡宮宮司が挨拶した。

灯

「慰めよ、わたしの民を慰めよと／あなたたちの神は言われる。エルサレムの心に語りかけ彼女に呼びかけよ／苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。罪のすべてに倍する報いを主の御手から受けた、と。

呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え／わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。谷はすべて身を起こし、山と丘は身を低くせよ。険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。主の栄光がこうして現れるのを肉なる者は共に見る。主の口がこう宣言される。」（イザヤ40：1―5）

一年の晦日、キリスト教の暦では、先駆けて新しい年を迎え、主の降誕の祭りを待ち望む待降節（アドベント）に入った。イスラエル民族が国を失い苦難の中にある時、祖国への帰還と平和の王の到来を告げる希望のメッセージが語られた。待ち望んだその方こそイエスであったとは、キリスト教の信仰の核心。しかし、その方は、人々の不信により十字架の道を行かれ、復活の後、再び来るとの約束を残して天に昇って行かれた。アドベントは、主が来られたことを祝うと共に、再び来る方を迎える準備の祭りでもある。（I）

世界平和 祈りの幕開け

神戸は国際宗教都市

神戸市

第7回「世界平和 祈りの幕開け」が11月11日、神戸市内のホテルで宗教者や各国大使など約300名が参加して開催された。主催したNPO神戸平和研究所（仙浩二理事長）は、全ての宗教のルーツは同じで、平和を祈り合うことの大切さを訴え、毎年11月11日にこのイベントを開催している。

開会にあたり、同研究所顧問で生田神社名誉宮司の加藤隆久氏が次のように挨拶した。

明治時代に和歌山県沖で座礁したトルコ軍艦エルトゥール号の生存者が神戸に滞在し治療を受けたこと、大正時代にロシア革命により避難した子供たちを無事に親許に送り届けたこと、杉原千畝が発行したビザで救われたユダヤ人が神戸に滞在したこと、戦後もベトナム難民を受け入れたことなど神戸には人道的国際貢献の歴史がある。

今も58か国、1万2000人以上の外国人が神戸に在住し、キリスト教会、ユダヤ教寺院、イスラム教寺院、中国人が信仰する関帝廟などがある。

神戸は国際港湾都市やファッション都市などと呼ばれるが、国際宗教都市の名称を加えるべきで、国も宗教も異なる人たちが仲良く暮らしている麗しい情景は世界に誇ることができる。この精神で、神戸平和研究所が毎年開催しているのが「祈りの幕開け」である。「共に世界平和を祈りましょう」と開会を宣言した。

開会挨拶する加藤隆久生田神社名誉宮司＝11月11日、神戸市内の会場

講演する仙浩二NPO神戸平和研究所理事長

来賓挨拶では、駐日サンマリノ共和国のマンリオ・カデロ大使、ウガンダ共和国のカーフワ・トーファス大使、マラウィ共和国のクワチャ・チシザ大使、イタリアのマルコ・ブレンチペ在大阪総領事が挨拶し、それぞれに平和の大切さを訴えた。

続いて、仏教、大本教、神道、天理教、イスラム教、キリスト教の代表者によって平和の祈りが捧げられ、参加者全員で世界平和を祈った。

記念講演で杣（そま）理事長が次のように話した。

このたび世界の宗教の共通性に関する研究を英語で発表し、来年、ヘブライ大学で講演することになった。

これまで聖書で「光」と訳されてきた箇所は「光の場所＝東の地」と解釈すべきで、古代エジプトと中国や日本との結びつきが理解できる。古代エジプト王の棺に記されている「大」の文字は、インドや中国の遺跡、出雲大社や伊勢神宮などにも共通し、いずれも神を表している。またジャッカルの顔を持つエジプトのアヌビス神が中国や日本では狐として祀られている。

いま日本の縄文時代が注目されていて、三内丸山遺跡にはエジプトや中東との関連を示す証拠があり、古代日本の研究が重要になっている。

講演後、竹岡誠治理事の乾杯の音頭で会食になり、岸田首相からの激励のメッセージが紹介された。イタリア人バイオリニストのマウロ・イウラート氏の演奏が会場を彩る中、国や宗教を超えた参加者らが和やかに歓談し、金岡重雄理事が来年の再会を呼びかけ幕を閉じた。

社説

農福連携で幸福社会を目指す

NHKスペシャルで11月26日と12月3日、シリーズ「食の防衛線」が放映され、米と酪農の深刻な現状に警告を鳴らした。背景にあるのは、1961年に制定された農業基本法に基づく経営規模の拡大、食料・飼料・肥料の海外調達の限界で、いずれも資本主義の本質的問題を示している。

食糧安全保障

米生産の規模拡大によるコスト削減は、経験的に耕作面積10アールが分岐点だという。それを超えると大規模化の弊害が現れる。飼料などの海外調達は、ウクライナ戦争による飼料・肥料の高騰により、各国が輸出制限する危険性を露呈した。これらを経済政策で克服するのは基本だが、それだけでは構造的危機は乗り越えられない。

日本はカロリーベースの食糧自給は38％だが、高地にあるスイスは耕地条件が厳しいにもかかわらず80％を維持している。国策として食糧安保を最優先してきた結果だ。長年にわたる国民的な議論がそれを可能にした。国民の多くが自身の生き方として、農家や自然環境を守るべきラインを設定し、一定のコスト負担を覚悟したという。農家の平均年齢は49歳で、世代交代が順調に進んでいる。

農福連携は農業に障がい者など福祉の対象者を導入し、人手不足と障がい者の就労を同時に解決しようという政策だが、もっと大きく資本主義社会の仕組みの改良を目指すべきだろう。倫理的に言えば、利己から利他への転換、利他に包まれた利己社会の実現である。そこに大きな役割を果たせるのが日本の宗教と言えよう。

新人類の中でホモ・サピエンスだけが繁栄したのはコミュニケーションによる共同・協働を実現してきたからである。そのため、他の動物に比べ脳を飛躍的に進化させてきた。血液の実に60％が脳で消費されていると言う。

共同の核になったのが宗教で、始まりは祭祀であった。フランスの哲学者アランが言うように、人間の悩みの大半は人間関係からくるもので、それが解決できないと争いになるのは、今も昔も変わらない。例えば、農業の生命線である水の分配は、集団の代表の相談によって行われたが、その決定を確保するには宗教的権威の仲介を要した。つまりシャーマンが神と人とを仲立ちし、祭祀を行うことで、人々の和を保ったのである。

そうしたアニミズム的な宗教は、やがてより多数の集団を統率する必要から、悪・罪からの救いという、個々人の内面からの渇望に基づく宗教へと進化してきた。マズローは自己実現を頂点とする欲求五段階説を提唱したが、梅原猛は救済欲を付け加えた。それは、悪・罪を自己の内に自覚してから芽生えたものである。共同体維持の社会倫理を拡大するには普遍的な論理が必要で、それが「悪・罪からの救い」という構造をもつ世界宗教の始まりとなった。

現下の食糧難も、人類史上何度もあったトリガーと理解すれば、これを乗り越えるのが21世紀の進化と言えよう。それには、科学技術に基づく資本主義の論理だけでは無理で、超宗教・超宗派的な倫理の普及が欠かせない。分かりやすく言えば、利他に包まれた自由・民主主義社会の実現である。

高齢社会では、高齢者の生きがいと融合させるのも一案である。現役時代は利己的に生きてきたが、自己実現の最終段階では利他的に生き、幸福感に包まれて最期を迎えるのが理想ではないか。マザー・テレサが言うように、人生の99％が不幸であっても、最後の1％が幸せなら、その人は幸福な人生だったと言えよう。それは誰もの願いではないだろうか。

健康長寿型農業

考えてみると、効率優先の資本主義社会も、多くの利他によって支えられている。子育てなどは、利他が働かないと成り立たない。他者との関係の基本である夫婦も、利他の気持ちを失うと険悪なものになる。自治体の社会福祉協議会の事業など、まさに利他に基づいており、政策の基本理念の一つになっている。

その利他と高齢者の自己実現を融合することが、日本社会を維持する重要なピースになろう。農家の高齢化は負の側面だけ強調されがちだが、健康長寿のための農業だとすれば、違う風景が見えてくる。実際、農業の現場を見ると、働いているから健康という高齢者は多い。もちろん、事業継続のため世代交代は必要だが、健康長寿と集落維持、人と地域を守るための農業も強調されるべきだ。それは、人は何のために生きるのかという根本的な問いに答えることにもなる。

天地

天地子が所属する農事組合法人では、14ヘクタールの田んぼでうどんとパンの小麦を栽培している。麦まきの適期は11月15日から12月10日で、限界は20日。ところが11月18日まで雨がちで田んぼを耕運できず、やっとまき始めたのは30日。一時は不安に押しつぶされそうだったが、天気が相手なのでどうしようもない▼ところが始めてみると意外に順調で、4日間でうどん用の小麦を7ヘクタールにまいた。トラクターに付けた播種機でまき、その後、一輪管理機で溝開けをするのだが、これが実にスムーズ。要因は、特殊な機械で荒お越しをしていたからで、その後、トラクターで耕運すると土がこなれ、播種も溝開けも以前よりやりやすかった。作業仲間が一転、明るい雰囲気になったのは言うまでもない。12月4日からはパン用小麦をまき、10日完了の見込み▼来年の稲作で計画しているのは、自前の乾燥機の導入。これまでJAの大型カントリーエレベーターに出荷していたが、それだと自分たちの米を消費者に届けることはできず、収入につながる作業時間も増やせない。幸い、日本政策金融公庫の融資は可能との診断で、50代の後継者も見つかった。5～10年で仲間への支払いは維持しながら、借金を返済する計画だ▼その過程で米の仲買業者に打診すると、いくらでも欲しいとのことで、米不足の一面を垣間見た。集落営農の楽しさは、地域とのつながりにある。70代になって人生最大の筋肉労働をしながら、天地子は脳と体を同時に鍛える嬉しさを感じている。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（3363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン
やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補 大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纒向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

仏教の危機人生の危機に希望の矢を放つ…三部作
浄土真宗の智慧 釈尊から親鸞に学ぼう 定価1200円＋税
寺院経営がピンチ！ 坊さんの覚悟 定価1200円＋税
死に方の流儀 中村メイコさんと山折哲雄先生に訊く 定価1200円＋税
瑞田信弘（たまだ・のぶひろ）・著 浄土真宗本願寺派称讃寺住職
発行：アートヴィレッジ
〒663-8002 西宮市一里山町5-8-502
TEL 050-3699-4954 FAX 050-3737-4954
URL：https://artvillage.thebase.in/